

農技セ第6519号
平成28年10月20日

各関係機関長 殿
病虫害防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病虫害防除所長
(公印省略)

平成28年度農作物病虫害発生予察情報について

平成28年度農作物病虫害発生予察特殊報第2号を発表したので送付します。

平成28年度農作物病虫害発生予察特殊報第2号

平成28年10月20日
徳 島 県

- 1 病虫害名 : アシビロヘリカメムシ (*Leptoglossus australis* Fabricius)
- 2 作物名 : ニガウリ
- 3 発生地域 : 海部郡海陽町 (旧海南町, 旧穴喰町)

4 発生概況

平成28年10月3日, 海部郡海陽町の露地栽培ニガウリ圃場において果実及び葉に生息したカメムシ類の幼虫, 成虫が認められた (図1, 2)。その後, ニガウリ栽培圃場24か所を調査したところ, その内9か所で発生が認められた。

この成虫の形態的特徴により, アシビロヘリカメムシと同定した。

本虫は, 奄美大島以南の南西諸島に分布し, 国外では東南アジア, アフリカ, オーストラリア北部, 太平洋諸島などに分布する。沖縄県ではウリ科植物及びカンキツ類の害虫として知られているが, 本土では平成16年には長崎県で発生が確認され, 平成25年に東京都 (大島町), 平成28年に鹿児島県本土各地で確認されている。徳島県内で発生を確認したのは今回が初めてである。

5 形態

成虫の体長は17~25mm, 体色は黒褐色で, 下面に多数の橙色斑がある。前胸背は中央前方に三日月型をした橙色の帯があり, 側角は鋭くとがる。後脚は長大で脛節が葉状に広がっている。

幼虫は1~5齢を経過するが, 4齢までは頭部, 胴部が橙黄赤色, 胸部, 脚部などは黒褐色である。

卵は黄褐色で寄主植物の茎部やツルに, 直線上に20個前後の卵塊として産みつけられる。

6 生態

成虫, 幼虫ともにニガウリ, キュウリ, ヘチマ, カボチャなどのウリ科植物のほか, カンキツ類, グワバ, パッションフルーツなどの果樹類にも寄生し加害する。

成虫は, 日中も良く活動する。人が近づくと大きな羽音を立てて飛び立つ。若齢期の幼虫は集団でいることが多い。

7 被害

幼虫, 成虫ともに口器を刺して植物の汁液を吸収する。ウリ科植物, 特にニガウリを好んで吸汁加害し, 被害を受けた果実は, 吸汁部や果実全体が硬化し食用に適さなくなる。

8 防除対策

本虫の発生を認めたら表 1 に示した薬剤により, 早期に防除する。発生が少ない時は捕殺等による除去も効果的である。

また, 収穫の終了したニガウリなどのウリ科植物を放置しない。

表 1 ニガウリでカメムシ類に登録のある農薬 (農薬登録内容: 平成28年10月19日現在)

農薬名	希釈倍数	使用回数	使用時期
アディオソ乳剤	2,000~3,000倍	3回以内	収穫前日まで
トレボン乳剤	1,000倍	3回以内	収穫前日まで

なお, 今後キュウリなどにも被害が発生することが考えられるため, 防虫網を設置し成虫の侵入を防ぐとともに, 本虫の発生を認めたら早期に防除する。



図 1 アシビロヘリカメムシ (成虫)



図 2 若齢幼虫集団